

令和3年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900178	事業の開始年月日	平成26年3月1日
		指定年月日	平成26年3月1日
法人名	社会福祉法人 清琉会		
事業所名	愛甲グリーンホーム		
所在地	(〒243-0035) 神奈川県厚木市愛甲3丁目18番25号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/14/index.php>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者に安心感をもってお過ごしいただけるよう、できるだけ制約のない雰囲気をつくり、寄り添うケアをおこなっています。家庭的で安心できる場の提供に配慮しながら、日々の暮らしの中で新しい絆を作るお手伝いをしております。近くの保育園との交流も含め、地域との交流を図りながら皆様の笑顔があふれる施設を目指しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和3年12月22日	評価機関 評価決定日	令和4年2月20日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の概要】</b> 事業所は、小田急小田原線「愛甲石田駅」より徒歩15分程の住宅や農作地などに囲まれた閑静な場所にある。平成26年3月に開設した準耐火の木造2階建ての2ユニットの事業所で、グループホームの他、通所介護事業所や介護老人福祉施設など多くの福祉事業を展開している社会福祉法人が運営している。 <b>【身体的拘束適正化・虐待防止への取り組み】</b> 身体的拘束等の適正化に関する指針を定め、身体的拘束適正化検討委員会を3か月に1回、身体拘束に関する研修を年2回開催している。委員会では、身体的拘束等の発生状況の確認、研修の開催報告などを行っている。また、研修では、スピーチロックに関する事例の検討や、身体拘束の指針や不適切なケアに関する動画研修を行い、ケアの質の向上につなげている。 虐待防止については、「高齢者虐待防止に関するマニュアル」を整備している他、高齢者虐待に関する研修や「高齢者虐待防止についての意識調査」を実施して、職員の理解を深めている。 <b>【職員の育成】</b> 法人は、個人情報保護、事故対応、防災対策、身体的拘束適正化、虐待防止、感染症予防などをテーマとした研修を毎月実施している。事業所が指示した行政主催などの外部研修の受講は、業務時間扱いで、受講料、交通費は事業所負担としている。また、人事考課制度の実施やキャリアアップ基準の明示など、職員の育成、モチベーションアップに取り組んでいる。
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	愛甲グリーンホーム
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	愛甲グリーンホーム
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で安心できる場の提供に配慮しながら、認知症の軽減や心身の状態を穏やかに保てるような支援を実践しています。	法人の理念「あなたの安心のために」は、事務室に掲示して周知している。管理者は、人事考課の際の個人面談で、職員の理念に関する理解状況を確認している。理念の「あなた」は、「1. ご利用者・ご家族、2. 地域、3. 職員」の三者（順不同）を指している。職員は、法人の理念に基づき、困った時に支援できる、家庭的で安心できる場の提供に配慮して、利用者に寄り添ったケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で現在は交流が少なくなっています。本来であれば、近隣の保育園との交流や、地域での催しには積極的に参加するよう心掛けています。	自治会に加入して、回覧板で地域の情報を得ている。散歩の時に地域住民と挨拶して交流している。9月開催の地元の神社の祭典や、12月実施の地域の年末美化清掃に利用者と職員が参加した。コロナ禍で、近隣の保育園の運動会やお遊戯会の見学は中止となっているが、事業所の敬老会に、保育園の園児がお祝いのカードを持参してくれた。また、市の移動図書館や、農協の移動販売の利用を行うなど地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか地域に向けての理解や支援方法が確立できていないと感じます。積極的に関わりを持ち、頼れる存在となれるよう努力したいと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で現在は書類のみを委員に送付させていただいています。2ヶ月に1回、事業所の取り組みや入居者状況を報告し、確認させていただいています。	運営推進会議は、2か月ごとに家族の代表、前自治会長、前民生児童委員、地域のボランティア団体のメンバー・社会福祉関係者や、地域包括支援センターの職員が出席し、開催している。今年度は、コロナ禍で書面開催としている。事業所では、会議報告をメンバーに郵送して、意見や質問を受け付けているが、特段の意見などは寄せられていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所の相談等では地域包括支援センターとの連絡が一番多いです。事故報告等では、事故内容や再発防止策を厚木市介護保険課に報告しています。	市の介護保険課に運営推進会議の会議報告を郵送して、事業活動状況や利用者の状況を伝えている。介護保険課には、事故報告の他、介護保険の手続きなどについて電話で相談している。今年度は、行政からマスク、消毒液、手袋などの支給を受けた。コロナ禍以前は、成年後見制度、医療連携、ターミナルケアなどの行政主催の研修に参加していたが、今年度は参加していない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の適正化のための指針について全職員が研修に参加しました。身体拘束について、改めて職員一人ひとりが再確認し、理解を深めることができました。	身体的拘束等の適正化に関する指針を定め、身体的拘束適正化検討委員会を3か月に1回、身体拘束に関する研修を年2回開催している。委員会では、身体的拘束等の発生状況の確認、研修の開催報告などを行っている。また、研修では、スピーチロックに関する事例の検討や、身体拘束の指針などに関する動画研修を行っている。管理者は、重度の利用者への投薬がドラッグロックにならないよう、医師と相談して服薬の調整をしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての意識調査(一斉点検)を12月に実施予定、令和4年2月に法人内研修があり、全職員が参加予定です。常日頃から絶対にあってはならないことと職員も理解しています。	職員は、高齢者虐待に関する研修や「高齢者虐待防止についての意識調査」を実施して、心理的虐待や介護放棄なども含めた高齢者虐待防止法等について学んでいる。管理者は、不適切なケアについては、都度気付いた時に注意してどうして悪いのか話し合っている。法人は「高齢者虐待防止に関するマニュアル」を整備して虐待の初期対応フローを明確にしており、虐待があった場合、速やかに管理者に情報が上がるようになっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修などには参加ができていません。しかし、必要になった時の連絡先等を記しているパンフレット等は取り揃えており、職員が確認できるようにまとめてあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明をさせていただいております。ご利用者やご家族の不安や疑問に関しては、その都度説明をさせていただいております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置し、日ごろから意見・要望をくみ取れるようにしております。苦情に関する問い合わせも、相談窓口を設置しています。	家族の意見・要望は、ご意見箱、運営推進会議、来訪時、電話連絡やメールのやり取りで把握している。管理者は、家族の要望にはできるだけ沿うようにしているが、沿えない場合は、理由を説明して納得してもらっている。従来、携帯電話は、壊れた時の責任の所在などの管理上の問題で持ち込みは断っていたが、家族から「携帯電話を持ち込ませて欲しい」という要望があり、法人と相談の上、居室のみなどの条件で使用している事例が2件ある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回法人内の運営会議に参加し、職員状況や提案事項なども合わせて、事業所報告を実施しています。そして決議事項等を会議録と合わせて職員は確認しています。	職員の意見・提案は、管理者が、日々の会話や、毎月のケア会議、個人面談などで聞き出し、運営に反映している。個人面談は、年1回の定期的なものに加え、新入職員には個別に面談を実施して相談に乗っている。管理者は、職員からの意見・提案については、否定せず傾聴して、職員が前向きに取り組めるよう話し合っている。職員からは、調理の効率化に向けて冷凍野菜の使用などの提案があり実施した。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を用いて、職員の能力や勤務態度、業務に対する貢献度や業績を一定の基準で評価し、向上心を持って働けるよう努めています。	事業所では、就業規則に基づいた業務運営を行っている。管理者は、職員の努力や成果を毎月の法人の運営会議で理事長に説明している。法人では、情意考課と成果考課からなる、人事考課制度を採用している。理事長も考課者として面談を行っている他、キャリアアップ基準を明示するなどして、職員のモチベーションアップに繋げている。管理者は、職員の心身の状況を、個人面談、健康診断やストレスチェックで把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修がある場合、全職員に参加を働きかけています。また、勤務などで参加できない職員には、その時に使用した資料などを確認していただき、内容を共有できるよう努めています。	法人は、個人情報保護、事故対応、防災対策、身体的拘束適正化、虐待防止などをテーマとした研修を毎月実施している。また、事業所が指示した行政主催などの外部研修の受講は、業務時間扱いで、受講料、交通費は事業所負担としている。外部研修を受講した職員は報告書を作成し回覧する他、必要に応じて伝達研修をしている。正職員の新人には法人が新人研修を実施し、非常勤職員の新人には事業所でOJTを実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	神奈川県高齢者福祉施設協議会の会員となっており、連絡会や研修等に参加できるよう努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談を実施し、ご本人の意向や状況を確認し、ケアに反映できるようアセスメントを実施しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時からご家族の心配事をくみ取れるよう傾聴し、説明を実施しています。そして、面談時にもご意向確認を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初めは、ご本人、ご家族も不安であると思います。状況を記録し、職員間で共有し、ご家族とは細かに連絡を差し上げるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活を重視して、残存機能を最大限に発揮できるように、楽しみながら生活していただけるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、ご本人の状況を説明・報告をしております。そして、心身状況で対応が必要な場合は、職員とご家族が共に協力し、支援するよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会に関して慎重に対応しており、現在は予約制の窓越し面会とさせていただいています。	入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。コロナ禍で、友人や知人の訪問はないが、電話や手紙の取次ぎ支援は行っている。利用者が愛読している雑誌の購読や、家族が持参する馴染みのヨーグルト、お菓子、ジュースや化粧品などの取次ぎを支援している。趣味の将棋を継続している利用者もいる。コロナ禍で、従来行っていた、家族との墓参り、外食や帰宅支援は中止している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が交流しやすいよう職員が状況を把握して、関わりができるような声掛けやレクリエーションを実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談等があれば対応するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前面談時に聴取して把握するように努めています。	職員は、入居前に自宅や病院などを訪問して住環境や生活歴を確認している。入居後は、日頃の会話の他、レクリエーションのおしゃべりタイムなどで、思いや意向の把握に努めている。意思疎通困難な利用者には、利用者の行動・表情や、家族からの情報から推測し、支援につなげている。把握した情報は、導入している介護記録システム上の業務日誌や連絡ノートで共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談時に聴取して把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	慣れ親しんだ生活様式を取り入れながら、穏やかに生活できるよう努めています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを実施し、課題や提案事項をチームで共有し、介護計画に反映し、作成しています。	介護計画は、アセスメントと2か月ごとに居室担当者が行うモニタリングを基に、カンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。カンファレンスは、計画作成担当者や居室担当者で行っているが、法人の看護師や理学療法士が参加することがある。参加しない職員の意見は事前に確認して反映している。短期目標は6か月、長期目標は1年ごとに見直しているが、状態により随時見直すこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践での成功内容も含め、状況や気づきなどを必ず記録に残しています。全職員が業務に就く前に確認するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や居宅療養管理指導、福祉用具の活用など、必要なサービスも相談があればご紹介できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出する機会が減少していますが、移動図書館や移動販売などを活用し、ご入居者が楽しむことができるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望にお任せしています。受診の際は、看護師より受診記録として主治医宛に連絡事項を記載してお渡ししています。	利用者の約半数が、3つの医療機関のいずれかと契約して月1～2回の訪問診療を受けている。他の利用者は、入居前のかかりつけ医に家族が付き添い受診している。受診の際は、看護師が連絡事項を記載した受診記録を家族からかかりつけ医に渡している。眼科や皮膚科などの専門医の通院は、家族が付き添っている。訪問診療やかかりつけ医の受診、通院の受診情報は、看護師や職員が介護記録システムに入力して、職員間で情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	i P a dでの記録のほかに、介護職員と看護師間でやりとりできる連絡帳を作成し共有できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	円滑に対応できるよう、協力医療機関等と情報を共有しています。その情報も必要最小限として、もし相談などがある場合は病院関係者と密に連絡調整するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、見学時や契約時にも説明をさせていただいています。特養や療養型医療機関などの移行に関しての相談もおこなっています。	入居の契約時に「看取りは行わない」という事業所の方針を説明して、了承を得ている。事業所は、利用者が重度化した場合、特別養護老人ホームや療養型医療機関、病院に移ることに相談に乗ることも説明している。重度化により、事業所として支援できない場合に備え、利用者・家族の了承のもと、同一法人の特別養護老人ホームへの申し込みも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修にて事故発生時の対応など全職員が参加しています。他、職員数名がAED取り扱いについての外部研修に参加しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、備えています。	事業所の所在地が、洪水浸水想定区域内のため、9月に水災を想定した垂直避難の訓練を実施している。来年の3月に地震と火災を想定した避難訓練を実施する予定である。事業所の避難訓練に地域住民は参加していない。また、地域の防災訓練にも参加できていない。災害備蓄品は、リストを作成して、食料と飲料水の他、懐中電灯、軍手などの生活備品や、消毒液やマスク、トイレトペーパーなどの衛生備品や排泄備品も確保している。	災害時における地域との協力体制の強化に向けて、地域の防災訓練への参加や、事業所の避難訓練への地域住民の参加の働きかけが期待されます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に相手に対する敬意と感謝を持ち、言葉遣いや立ち振る舞いに気を配るよう全職員が意識するよう努めています。	職員は、接遇と個人情報保護の研修を受講している。利用者の呼称は、名字に「さん」付けとしている。利用者個人の持ち物には、名前は書かず部屋番号を記載している。また、フロアでのケア記録などは、パスワード管理しているタブレット端末で入力するなど、プライバシーや個人情報の保護に配慮している。管理者は、職員の会話や行動で、気になったことは都度個人面談で指導している。また、必要に応じて連絡ノートに記載して職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを表せるように、常日頃から声掛けや関わりを多く持つように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを確立するために、ご本人のあったケアを実践するよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ洋服を着まわさない、季節にあった衣類を着用していただく等、見守りや声掛け、準備を行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にあった食事形態で提供し、美味しく召し上がっていただけるよう実践しています。片付け等の役割をお願いすることで、残存機能の維持向上もできていると感じます。	食材は、肉屋、魚屋、八百屋などの配達で調達し、足りないものは職員がスーパーに買い出しに行っている。法人の管理栄養士が作成した献立に基づき、職員と利用者が一緒に調理している。利用者は、食器洗いやテーブル・食器拭きも手伝っている。利用者の状況に合わせ、刻み・ミキサー食を提供している。七夕の時のおやつバイキングや、ホットプレートでのお好み焼き作りなどの多様な食事レクリエーションで、利用者を楽しませている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を提供していますので、栄養バランスも問題ないと思います。減塩対応者には、できる限りの対応を実践しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨きやうがいを行っています。自身でできない方は、職員でケアを実施しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々にあった排泄方法を実践しています。日中は、ほぼご入居者はトイレに行きます。定時・随時で誘導を行っています。	排泄は、介護記録システムで把握した排泄パターンに基づく定時誘導や、利用者の様子や仕草に基づく随時誘導を行いトイレでの排泄を支援している。誘導の際は小声で話しかけるなど羞恥心に配慮している。夜間は、睡眠優先や定時誘導など個人の特性に合わせて支援している。利用者が使用するパンツなどはカンファレンスで検討している。入居した当時リハビリパンツだった利用者が、支援の結果、布パンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と看護師が連携し、排便コントロールを実施しています。介護職員は看護師指示による下剤管理表を把握して対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	菖蒲湯やゆず湯など季節の入浴方法も取り入れながら、楽しんでいただけるよう支援しています。入浴日は設定していますが、希望があれば個々に対応することも可能です。	入浴は、原則週2回、午前中を中心に利用者が希望する入浴時間や曜日に気持ち良く入浴できるようにしている。リフト浴があり重篤な利用者でも入浴が可能である。体調の悪い利用者は、シャワー浴、足浴や清拭で対応している。利用者は、菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を楽しんでいる。お気に入りのシャンプーを使用する利用者もいる。また、同性介助にも対応するなど、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度の調整や、週1回は必ずリネン交換を行い、安眠できる環境を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬方法を把握し、ご本人がきちんと服用しやすい性状を主治医と相談し対応しております。服薬に関して変化などがある場合は、記録にきちんと残し職員間で共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月例レクリエーションの実施。毎月担当職員が、季節にあった特別レクリエーションを考案。楽しんでいただけています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	コロナ禍でなかなか外出ができない状況です。少人数で、近隣を散歩したり、ドライブなどを実施しています。	天気の良い日には、車椅子の利用者も一緒に、事業所の周辺など10分圏内を散歩している。また、散歩を兼ねてコンビニに行き買い物をするレクリエーションを実施している。庭のテラスで外気浴や日光浴を楽しむことがある。今年は、初詣や花見に徒歩で出かけた他、花見や紅葉狩りに車で出かけている。利用者の外出歴は介護記録システムに入力して把握し、利用者の外出に偏りがないようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として、個々のお金を事務所管理としてお預かりしています。ご本人の要望があれば、その中から買い物や散髪などができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的な電話などが施設の電話にあればお繋ぎしています。現在2名の方が携帯電話を持参されており、本人管理、居室内のみで使用されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁画や、レクリエーション内容の写真を掲載しています。住み慣れた環境作りを実施しています。	共有空間は、明るい日差しが差し込みゆったりしており、車椅子の動線も確保されている。庭にテラスがあり、日光浴やお茶会ができるようになっている。温度・湿度管理は、床暖房やエアコン、加湿器を調整して行っている。また、日中は小窓を開けて換気を行っている。リビングの壁には、梅雨、七夕、紅葉などの季節の貼り絵や、レクリエーションの写真を飾り付けている。12月はクリスマスツリーで季節感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席にも配慮をし、必要であればテーブルレイアウトや座席の変更を行って、一人ひとりが過ごしやすいよう努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室となっており、入居の際は、ご本人の思い出のあるものや好きなものを持参していただくよう声をかけさせていただいています。	居室は、ベッド、エアコン、洗面台、クローゼット、照明器具、防災カーテン、スタッフコールが備え付けられている。タンス、椅子、テレビ、時計、仏壇、ぬいぐるみ、家族やペットの写真、好きなプロ野球球団のユニフォームなどの馴染みの品や思い出の品が持ち込まれ、個性豊かな居室になっている。ポータブルトイレを利用している利用者や、安全対策として、離床マットセンサーを使用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	就寝中などは離床マットセンサーを活用し、転倒のリスクのあるご入居者の安全に努めています。他、衝撃吸収マットの設置やポータブルトイレの設置もしています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

愛甲グリーンホーム

作成日

令和4年3月1日

IF

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所の避難訓練の際に近隣住民の参加がない。また地域の防災訓練にも参加ができていない。	災害時の地域との協体制を強化する。	年2回の事業所の訓練については近隣住民に参加していただけるようお声掛けをしていき、地域の防災訓練には日程等をきちんと把握し参加できるよう取り組んでいく。	2022/4/1～ 2023/3/31
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

愛甲グリーンホーム

作成日

令和4年3月1日

2F

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事業所の避難訓練の際に近隣住民の参加がない。また地域の防災訓練にも参加ができていない。	災害時の地域との協体制を強化する。	年2回の事業所の訓練については近隣住民に参加していただけるようお声掛けをしていき、地域の防災訓練には日程等をきちんと把握し参加できるよう取り組んでいく。	2022/4/1～ 2023/3/31
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。